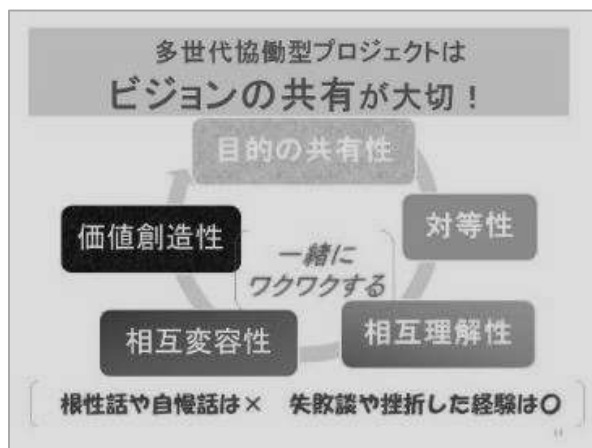


●多世代協働プロジェクト「ビジョンの共有」

大学院での学び、私のライフワークでもある、1つで、今日、午前中の樋口先生の基調講演の中でも出てきましたが、「実践！多世代協働プロジェクト」ということで、これは私の研究のテーマでもある陸前高田市広田町に移住した20代の若者とシニア世代との協働プロジェクトで、シニアスタディーツアー、そこに地元の人とか、あとはUターンした、この方、この方ですね、この方はカキの養殖漁師さん、30代の方です。地元の方を巻き込んで、過疎の町の交流人口を増やしていこうという試みです。

多世代協働型のプロジェクトはビジョンの共有が大切で、先ほどからお伝えしているように、高度成長期に頑張った私たちの根性話や自慢話はNGです。失敗談や挫折した話のほうが、今の若い世代には、失われた20年に生を受けて、どっぷりその中で生きてきた彼らには有効なようです。まずは対等な立場でお互いの世代を理解して、そして、ちょっとずつお互いを微調整していき、先ほどチューニングという話がありました。そして、最も大切なのは、「一緒に楽しくわくわくする」こと。それで、ビジョンの共有。これが大切だと思います。



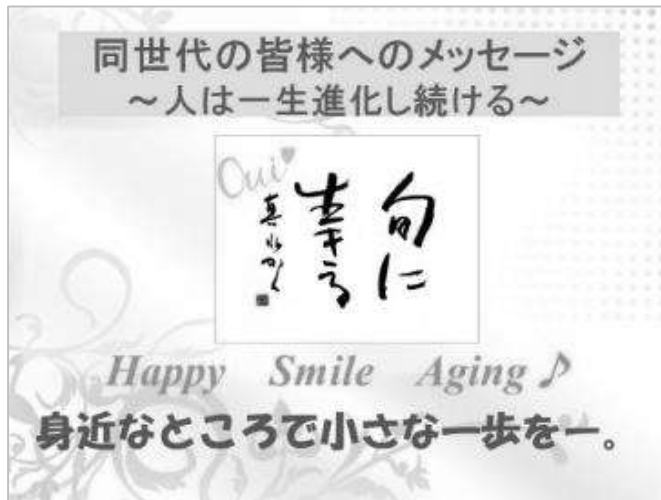
これは、やはり身近なところで、社会貢献ということで、豊島区の小学校で後期高齢者、平均年齢75歳以上の奥様たちに向けての、ミニ講座の後、小学校の給食を一緒にとる講座だったのですが、ここで皆様のお手元にある「故郷」のメロディーで世界の挨拶をするかえ歌をつくったんです。もちろん転倒防止体操とか認知症予防運動とか、すごく効果的だと思うんです。でも、私は両親を介護した経験から、知的好奇心を刺激するということが本当に大切なことだと身をもって体験しているんです。彼女たちは、本当に45分の講座でしたけど、あっという間に、覚えたとは言いませんが、このメロディーと挨拶になじんでくださいました。



● 「旬に生きる」

最後に、皆様に送る言葉です。この「旬に生きる」という言葉は、私のある友人の書家の方が私の生き様を見て誕生日に書いてくれたものです。身近なところで小さな一歩を。等身大でいいから身近なところで地域貢献する、コミュニティーに入る。そういった最初のステップが大切で、人は一生進化し続ける、これは社会学の中でエイジングという領域なんですけれども、棺おけに入るまで人は進化し続ける。Happy Smile Aging。こんなシニアになりたいと思っております。

一緒に頑張りましょう、皆さん。

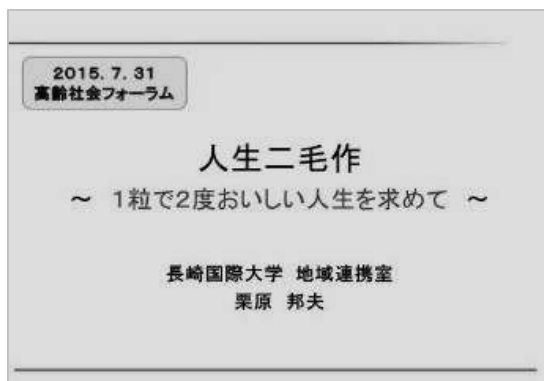


【栗原】 こんにちは。今年3月に麒麟社を退職しまして、4月から長崎国際大学にお世話になっております栗原と申します。よろしく願いいたします。まずもって、このような機会を設けていただきまして、ありがとうございました。

今日お話しすることは、ほとんど自分のことばかりで、自慢話に近くなっちゃうので、是非気楽にお聞きいただければと思います。

タイトルはこのような形です。流れですけれども、自己紹介を中心にしまして、最後のほう、4つぐらいの部分、こちらをポイントにしてお話ができればと考えております。





自己紹介	
◆生年月日	1958年(昭和33年:戌年) 5月26日生 57歳(三男坊)
◆出身地	東京都荒川区東日暮里(ニッポリ;上野の近くの下町) ※母親(86歳)は日本橋浜町で次兄夫婦と同じマンション内で一人暮らし。
◆家族・住所(一家離散型家族?)	本人 ⇒ 長崎県佐世保市ハウステンボス町(教職員住宅) 妻 ⇒ 福岡市南区筑紫丘(自宅:西鉄大橋駅徒歩4分:9年前購入) 長男 ⇒ 東京都練馬区(TOTO勤務 27歳) 次男 ⇒ 熊本県熊本市(島村楽器勤務 23歳)
◆趣味	スポーツ観戦 散歩 一人旅
◆好きな物	キリンビール 枝豆 乳幼児の笑顔

自己紹介ということですが、こちらにも2つぐらい、なぜ東京下町、日暮里生まれが長崎に移ってしまったかというポイントも書かれています。退職したのは56歳、今57歳になったんですけども。まず親が、とても出来のいい兄貴が2人いたので、大変安心して、どこでも行けちゃう三男坊というポジションです。

●一家離散型家族

おふくろも下町ちゃきちゃきで、生まれ育った浜町で今も元気に暮らしております。そして、何はともあれ、うちの家族はどうなっているんだ。いろいろなタイプがございますが、自分で言うのも何ですが、一家離散型家族と。これは、みんなそれぞれ、一人一人自立して、困ったときに声かけて来いやみみたいな感じで、私、今の環境、ずつつくり上げてきたのですが、ハウステンボスの前に住んでおります。

今行っている学校も歩いて20分というところで、大変理想のところに、ユートピアに住んでいるというところですが、嫁さんは単身赴任が長かったんですけども、福岡に家を9年前に買いまして、そちらにピアノ部屋をつくりまして、私は体育会系なんですけど、嫁さんは音楽大好きでピアノから離れられない、そういう理由をもって単身赴任、お互いに認め合っているというところの、後でまた詳しくお話しできるかと思いますが、そういう中で、4人家族、一家離散型家族が手に手をたまにとり合って、生活をして、今の生活をつくっているというところがございます。これは簡単に見えていただければと思います。何が言いたいのかというと、私の職歴という部分、営業もやったり、工場で人事・労務関連もやって、大変いろいろな仕事をさせていただきました。大阪に11年ぐらいいまして、それから取手工場5年、それから九州が長いんですけど、約11年間、九州、長崎中心にいたということで赤く染めております。あと、水色のところは、私、あまり行きたくなかった東京本社ですね、そこにやはり7年、8年いたというところがございます。東京が嫌いなわけじゃないんですけど、何か田舎が大好きだということをご説明をさせていただければと思います。

職務歴 (入社動機: 親父が家業の染色工場の責任者だったので、モノ造りのメーカーを希望)	
1981年 4月	キリンビール株式会社大阪支店 入社(営業:岸和田市・貝塚市 他)
1986年 3月	大阪支店 営業企画課(ハイネケン・ギフト・自販機 他)
1987年 11月	大阪支店 販売推進部(業務用:パブル時代の大阪ミナミ担当)
1991年 11月	取手工場 総務担当(人事・労務:「太陽と風のビール」品質事故)
1996年 9月	九州支社 営業第4課課長(福岡県:筑豊・筑後エリア)
2001年 1月	九州支社 長崎支店長(同年10月より、九州地区本部 長崎支社長)
2005年 9月	酒類営業本部 営業部 営業企画部長代理(全体取り継ぎ)
2007年 9月	営業本部 営業部主幹(新組織プロジェクト・間接業務効率化プロジェクト 他)
2009年 3月	九州統括本部 本部長(九州7県+沖縄県の営業責任者)
2011年 3月	CSR推進部 部長(東日本大震災と同時期に異動・対家本部事務局長)
2013年 3月	キリンホールディングス(株) 執行役員 グループCSR担当ディレクター 兼 キリン(株)執行役員 CSV推進部長 兼 キリン特プロジェクトリーダー
2015年 3月	早期退職(34年間キリン社勤務) ⇒ 長崎国際大学へ 現在に至る

これが私の使用前、使用後でございます。一番左が、希望に燃えて、慶應野球部卒業ということで勉強を一切していませんでしたが、たまたま採用試験の前に立教戦でホームランを打ちまして、「昨日、ホームラン打ちました」と言ったら、今から言うと裏口入社ですね、オーケーが出まして何なくクリアしたんですが、その10年後、32歳のとき、この怒られている姿のお父さんが、実は今、麒麟ホールディングスの会長をしている三宅でございます。直属上司という。もちろんやらせの写真ではございますけれども。その右側が東京六大学で一緒に野球をやっていた青島健太、スポーツライターですね。敵のアサヒスーパードライの宣伝で一躍有名になった人間と、麒麟ビールで乾杯している様子でございます。



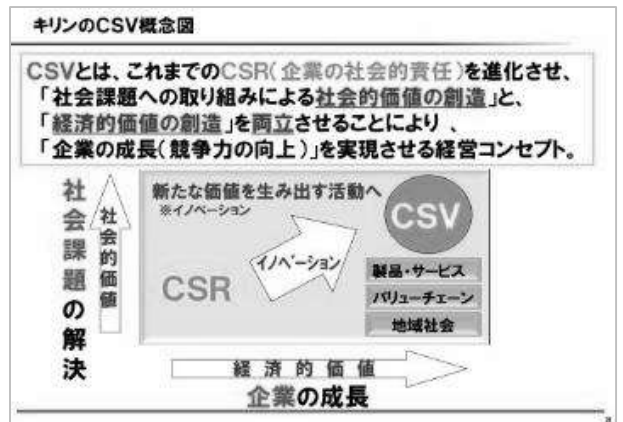
●CSV—社会と共有できる価値

これが私の最後の名刺に近い形です。ここに私の意志というか、きっかけが2つ存在しております。CSV、これを聞いた方はなかなかいらっしやらないかと思いますが、そのCSVというのと、復興応援麒麟絆プロジェクトのリーダーをさせていただいたというのがますます自分の意志を高めたということでございます。



Creating Shared Value、社会と共有できる価値の創造。私が言うと何かあまり、皆さん、笑われちゃうんですね。やっぱり体育会系があまり難しいことを言うと全然説得力がなくて、松田さんにも笑われちゃっているんですけども、ハーバード大学のポーター教授という方が提唱されている経営コンセプト、経営の競争戦略ということでございます。

この辺、キリンのって話していたら、こういうものの講演会を随分やっていたので、これだけで終わっちゃうので、ここは是非うちのホームページを見ていただければと思います。簡単に言えば、事業を通じて社会をよくして会社も強くなるみたいなものということで、守り型のCSRじゃなくて、それが進化したもの、要はここに書いていますイノベーション、新たな価値を生み出そうというようなことが、社会というか、会社でも求められているということです。



その象徴が、さっき怒られていた私の親分の三宅、今、会長ですけども、左の「社会の期待に応え持続的な成長を目指していく」、ここを見ていただければと思います。やはりこういうところが社会に向けなきゃ企業も成り立たないというところがございます。私が同じようにCSVの責任者だということがございます。



●大震災を経験して「絆プロジェクト」

これは結構ショッキングな写真かと思います。震災でうちの仙台工場も15基中4基が倒れて、泡まみれです。本当はもっと見ていただきたいのは、屋上に481人の方が避難されて、何とか皆さん、無事生還されたというところ。ここに書いています、地域社会とキリンがともに地域の課題解決に取り組むために、この絆プロジェクトをつくってスタートさせたというのが私の大きな転換期になったのではないかと思います。